俗諺意乃梨

上

蘇東坡元英

仿蘇東坡

東都壹隼　筆受堂英大助

蘇東坡

意一筆引

三浦氏所蔵之

かきつゝみ思ひなれぬるものをよれ
銀子立花の道広くほとけてわが見しわざ
に体を取りて天下の何侍に
まさりし殊に精しき物をやとおもふに
もとむるの心やまはかしくも見ゆるに
あまた数寄そのわかれておさまりくも
言葉に申くせしもまたかゝわるゝ

ゆゑし年々よね蓋嵯峨に八立花の道と
定めて来たるくる物も侍りし中の
おのづから無為のたちまちよそて
立花をぬきの古き茲の内にとかれけ
にて何の自然なりに従ひ給ひ能く
はかりて四思やら時きあかりにわか
さ
嘉の頃の年春花心たくしふ稀

月をあつむるの便とせしめんとす
よろこびてやましく行しか録
蘿庵蘇いつのほとりにて書叢より
りく拝見つの類ひ指南を一冊となし
やゝ校刻のことをおもひたちてつとめ
東てなさ良きをすゝめゆるへ
紙魚のすみかとなさんことを費

なつ舞ひ也ゆふしかの月かきくみの
布袋のとしはしめ稀なる
されとも此えたをとるの男は
あら孫子ハ章氏のよろこびをうけ給ハ
えもいはれぬなてうつはかりやら
秋みもあいなしくかれて其去の
すなはち左よりしるしをわすれし

の世とゝ　あゝ　はるとうんめとこひのもて
あそひるゝもまあ　おもふのゝとそ

八方園海寿

附言

いよ〳〵よりつゝひまる点の詞あり　形式
おゝと巻もあゝれとこハ後ゝ寄ひとひゝふ
たひゝる法〳〵のせてくハ一ゝひおのれさちふ
去の中ゝ出ていとゝあるまふくハ方ゝ法抄記
林良枝あるハ藻塩草ゝ墻枝抄ゝとゝあゝ
りゝゝるゝ点ゝりとゝるせ一抄数ありされ
ハかの形式をゝ巻ゝるとゝりれゝるをひ
らひ万葉原氏をかのふゝよりも婦女
のゝつゝ巻ゝ詞巻枝京抜草木のたくひ
をゝのゝれとゝくゝつゝ集て一冊子とゝ

をるを貴の伊こ来るまでもあんけて来るの
かせんとゝふれ蕃さる爲きまもあるねた
それらんまきてりさまとは尾ゝ老と
ら人の見のふいとゝつゝ十つ十とた
るそ孫来とゝふハ仁のそと写ふひまるひの
助けませんとのゝ扨意の付句ゝ古人の色く
ゆ法しおる是りとを宮ゝ述ん昔意影ゝ
名るき聖あり伊ゝ有ゝくく意の実情を志
りのふやと人の兄しゝ赤ハ森ても見ても
絲陀をゝるれ意ゝ人をもてゝありと爲く
しいとそるきいさるゝまやをくハ蕨ゝ太ゝら

紅雪や沼ゝり意の千松浦とゝふ句の意の一字を
男ゝへしゝ蔵の枕とゝふ集ゝ此ゝ家ゝ才を賣
き引りとゝふゝ又ゝて形む伊りの続ときとゝふ
祖翁の附句を是ハ才をゝれたる女の母乃
式ハ紅ゝ又ゝ雪句ゝ此ゝとあるより附句の続
伊とあるを詩ふへしゝ此又を拾ひ女の考のまく
やるとゝふてハ只ゝ赤ゝこの附まて翁の意ゝ可
ハしゝ祖翁ハ雅ゝ意句ゝ妙ゝ細き筋ゝ意
ものりつて拙おりゝ才ゝ拙くへとせつゝまて又ハ
ふゝ女つゝんて洗ふ油ゝ樹分ゝ意の人をかた
せゝやるゝと一ゝ拳るゝよいゝと爲あゝ情言ゝ

あるれさるよ人言の及ふ所ハ徹去泥和語
ふ忘れぬやさハ呂れ利我人ハ夏ふるゆ世とそい
ひて為きしといふ定家卿の説をあけて古今
誰も及ふまきハ意の説ありと云れさりされハ
奇ふも俗説ふも先達のこゝをとめらゆ
思ひ者為し古今抄ふ曰数考 意の一字ハ天の
字搭の詞ふハ意の字ハまこめふとうて大和説の
本意とるきれハ代々の帝の撰集ふも意の説る
しとふをるし此ねふ連歌の友式ふりそい
かゝの古抄ふ為ふを意の詞を出集て意ハ
三句ふり又句と定むるハ意ふハ詞

をもて意とさすまして又字ふかりねて古抄ふ
女の一字ふり妨と云ハ娘ともいハ世良傾城の名
目とても當句ふ意の説ふ情なき附ハ例の言葉ふ
を意とハ言ハ此ねふ他門ふり意を一句ふて
搭ると云ふ説の説法あるふり意ハ信仰の
度程ふり一ハ必二ふ定りを三を四ハ拍の
源行ふれハ三句ふり又句ハ附ふ意
を一句ふて搭ふ表ねをさるを中古のをい
かゝハ風呂屋の為ふ下等と附ても意ハ
二句ふりといふんふとき我家ふ且でを扱
ふ〇意の一條ハ今式の一ハふすして意ハ

一句まて捨まき侍の句の紙をいひてき
れハ未然よ定らんを厚いんとなれハ
句の意ハ常よあまきとんの意ハ句よあるゆ
ゑ時を句よ向ふきハかりて捌と
たとハらしん坊の鉢も一度よ起そろひ皆の
生るそりやとよ拭といふ句ハふしん坊の鉢鍋
そこの埃を掃おろすよおくれて起ある人
のよ拭を掌よ掛て及ひ掃よきしきるハ
大工木挽の立さつきて拍のを活表さるる
を三句目の仮表の変を志りて打こ
ゝひを時せんとこゝよ起情の附方を案

しておりしゝやおトいぬるの情れるくてと
侍軍中の志のひ春よ床の下るいさや川の
いさゝぬ点そ生るゝめ志ゝて春句の
仮志るうて句意ハるるまともほの仮意
の眺力より拙ゝと意の沿情を見付たれハ
彼と系との二句とるりて意ハ変して二句
るりとふ〳〵しらくよぬくひの表情るれとも
附句よゝゝひて意とるまハ意ハ一句まて
捨ひといふ師資の口訣ハけいひるへし
又白雪紙ゑ曰 堤ハ三さらしの日の一つるり侍女の
芳子ゝ黄昏ゑ女去の冊子ゝり
意のをを先坊曰むゝより二句結さまさ

用ひさるゆむうーの句ハ意の詞をのぞいて集
おき意詞をつゝり句とするーんの意の誠を
おりゝさるなりそのゝ宗祖宗祖の説とハ一句
まて止るゆ例るきまもあゝれ此ハ拾ふくつ人と
も詩して一句まても意へきてゆもあんうとく
又いゝく句意とも意るゝれとも所付
かゝきく句をハかるゝれ意の句を付て寄
句ともよ意よるをへしーとえまりかゆゝ
ゆ説おるまてーるもあまきハ意を一句まて拾る
ゆ例るきまゝもあゝねとこハ功者のまさそ
和んのさゝるく求てすくきるゆもあゝれ

扇風の陰るを見ゆる菓子屋とある附句を見て
寄句よ理をつゆ意を一句よ拾うとゝふ説
ハるゝよ面し只字面の説ゆてんの説を考
す意ハ月花よ後て主きを抱るまハ二句ハある
面きるうかゝき時ハ志なるへーー梨とふハ姫爰
続るといひ意てんよ意るきハ皆梨くを梨る
句を集てしゝ小冊を意の梨と題す形乃の先
通と彩む而の沙よ寄て宛欲ひゆく元ゝう我
編戈完もまゝ全文引書の侵を筆て
抱を後て億所せ億所せの世さまとハ著述の衆も
又まくるゝんを干時文化丙子の春鴨北元識

古語を今にうつしてんし紙勤ハ付ゐ
悪魚の扱くされる其のく思び入ふを
者をもゆかやる人もさ雑せうきんにし
其を戒んとり策りて附なるのみすゝて
めでたてらるべし雑屠龕れ玉句若乃
かくのみちせんとてよく此編をあそりと
うるはしくものゝかゝふ應してかつらの
老漁甘日尊白荇筆をとる

凡例

一字のよこに引たるハ○意○一の山一夜
と上の字をを借用之
一字のかたハらに引たるハ妙娼嫁（ミタ人）｜｜と
上のかなとを借用なり
一 五 かくのごとくかこみたるハ万葉集より
出たる詞 源 かくのごときハ源氏物語
より出たる余ハおもゝなるに依て

川あの金えと沼る物を
一氏士伝えをひのるるあるを八法て
かるを正さひ川士くの作をあく
をとめおとめるとふく伝えの論も
筆たをとこハを物ようその論ろう
伯伝の正文をかをの只書豊の
さとしあるんを書一とす
一附言ようをくく氏小冊意義と題え

たをこと金文皆意の何ようるとい
ふるのあるに只婦人のよう書用をう
のをと載るる人論えるようをるを一
一孔門のをちち乾坤を首ようを亜ハ
定ら法るれと氏冊意ようをとつき
たをハ意とつる字をそるようるさんるる
人る門をおよを亜乾坤を好まる

目録

人事 初丁
婚姻 二十二丁
支神 二十七丁
人倫 三十九丁

意よろづ人情あり世の
言語おくの古語和漢
の故事ふるを集
嫁入聟入の式まつてまん
きいよ付うたを乗せ
たりつり船婦人の髪
かづらもの用品花柳
るき言葉の上りう廣人
のいやきらあるとまつて
婦人の名目を多く載

衣類 五十丁
器用 五十八丁
買賣 七十八丁
神釈 八十九丁
乾坤 九十丁

衣類よろづ平生の衣類おを集
船乗り婦人の身ごを付る色地
歌和書うづ出地の新
柳色柳女の名目買色ごよ
りうる古今の名所地名ふ
意を彩り而の神仏寺ま
自井釣ものおを記
意の行ようづる名所名
寺寺舎釈和漢の故事
ふ多く載

引書目録

日本紀
古事記
職原抄
令義解
外代巻
延喜式
古記
梁塵秘抄
江次第
西宮記
拾芥抄
備找抄

旧事記
万葉集

史
職員令
禁秘抄
撫記
竹元抽語
北山抄
女房諸抄
八雲抽抄
云佑日記

太和抽語
宗長抽語
長五集
拾花禁集
小右記
洛正式
江次
保氏抽語
長秀余情
細流抽
長長抽
宗長抽
三知抽
名目抽

うつの抽語
玉伝秘抽
吾れ公異見
榻略暁事
胡曹抽
貧見記
仙見抽
岷江入礎
河海抽
孟津抽
袖中抽
長文抽
道找抽
拾遺抽

亮擢式
聖皇本紀
和名抄
公事公添
六百書寄合
寄海女
仙原抄
枕草紙
寄林京找
寄崇抄
拾葉抄
つれ〳〵草
長能私記
私葉抄

見抄
藻塩抄
百寮訓要
捲川殿中日記
玄七日女女
書行法記
閑窓抄
織人寄合
名抄
裝束抄
自撰寄
狩紅葉
四季州
歳時記

後拾抄
詩經
周礼
說文
前後漢書
西京雜記
天宝遺事
白氏文集
遊仙窟
呉竹集
揚氏漢語抄
香炉峯抄
野人養子

詞林採葉
小右記
源氏
礼記
爾雅
釈名
遵生八牋
五雜組
文選
姓氏録
呉鬼志
東夷列志
源平盛衰記
諺苑
和寄分類

宿
京都二条
名所〻〻
光孝
玉勝間
万葉考
冠辞考
つゝく家
小袖屋
幸徳名考
紫式部日記
太田錦城
人物列傳
女用列傳
雅俗九
さるひこと
形式
塙山井
和学七部
雅俗漫録
安政雅集
万葉異解
略語彙

意匠

上

人事

江戸

葎雪庵賀茂而石

櫃之本北元著

○意

こゝろ

うきこと
訪
さむろ
形
絶
なくさむ
風
夜

見る
文
琴
語
いも
の
渕
の
詠
の
奴

秋
おもふ
えのふ
つゝる
いくよ
かるハね
つま
の山
の海
の世

あふ
片
為
下
えき
癖
人
ん
のやゝ
病

ーやせ　ー忍　ー恋　ー死
ー姫　ー盛り　ー別し　ー別
ーの友　ー人　ー中　ーせぬ
ーわする　ーせく　ー恋しよ　ーまさる
此外いろ〳〵あれとも一二を載○思○慕○忍
るとの字をも大体いへる余りをる微之
○恋もてふ すこひ○ー寸さむ こひ捨之○ーらく
らくハ恋しく○大かしき ロ恋しと○思くるそ
るとのらくも○恋たしひ つゝくと
こふる○諸恋(モロコヒ)の恋之○井の恋之 井恋○ー蓮(レンボ)
かく
ーの友○うら恋しーハんをつふ又他と
ーの暮 いふも

ーかゑし　ーさひし　ーしろく おもふ
○恋重荷(コヒノオモニ) いやしき志姫をこひ奉し時かゝて
一首れよとなし えし此荷を持まるをつれは奉せんさい
○恋艸 詞にあなハあれ恋の○恋痛(コヒタキ) 恋しきの
数く又茂きをたとふ 恋徳きく
○思 おもひ おもふ
ーの山　ー川
ーの淵　ーまひ
ーまる　ーす　ー神　ーせく
ーよわる　ー余る　ーかくる　ーのますす
ー中　ー寐　ー人　ーのく
ーねと　ーくする　ーあまふ　見えしー
れー　つゝるー　ーつむー　いそぬー
ふしてー　えきぬー　うきー　そらるー

袁ぬ｜　｜さまし　｜とち　｜のこそ
｜えるもの｜　｜をぬ｜　｜ゆ　｜　｜我｜
｜　｜乱　｜の外　｜のたる　｜出　｜入
｜のた　｜のか

○おもほえ所思　○あくがるる余思
トの｜　ろう

○ぬんじ俊思　○伯あく　ものひとこと
ろう　　おりひとるろう

○くづをるく頽墮　おりひとて分のるやむとろう
　　拒れの如く

○抱くハぬ　○片思　五十一首地の見のろう
　　思ふ　　おりひとてと

○いつそえふ悲　いたんとすれハいたれすむる
　　おりひのせつるろん

○根ざし　おりふんのる思ふも　○ろう曙　ものおりひ
　　ろつむこ

○春よおろし　○秋よ｜　詩曰女感陽気春思
　　系女ハまをあるまむ

○思艸　男ヲ男感陰気ヲ秋思女ヲ　五ヲ屋ろりとのまりひくき
　　仙よろしていつのるよハあひ
　　ひくきのたくひろへし
　　良我よるてしまるんなろ又
　　萩万葉よ海の弁よまあるちひ
　　末よ形咲色薄ゆ草のとし花咲ハ薫る
　　るるこ　如ろ神ゆとる　形ゆ

○まを　ろきけ　八よるきけハのとるきとつるてら
　　ハ　ろう解るる墨

｜　ろり　｜を壹　つきし　るけの｜
｜をろる　保き｜　ろもき｜　｜のかと

○みやび｜｜ん｜｜る○風流○閑○閑麗 伊

八」よりみやびハ情を実説情をかハそんけさ〜まさく

○丑 志のよ 志のうく ○安部仲麻呂 とつ〜ゑ〜ゑあり人目丑

志のひ 志のハしき 志のひて面てふるとの志のふハ

志のひて面てふるとの志のふハ凌の字くむうを志のふ

うきと志のふるとハ素之素の字ハ志志とこころうう

加ゑ志のふたへ志のふハ丑の字く丑の志のふいこうく塔丑

すの志ゑ凌の志のふハ狩志のふの志く

｜｜ 扶 ｜｜ 足 ｜｜ 紅

｜｜ 弥 ｜｜ 出 ｜｜ 衣 ｜｜ 伏

｜｜ 春 ｜｜ 任 ｜｜ 男 ｜｜ 世と ｜｜ 丈

人めと｜ ｜｜ 奈 ｜｜ 紅 ｜｜ 丈

うきと｜ つ〜ゑ〜ゑ ｜｜ 丈 ｜｜ 丈

○笠たて 志のつさる〜 ○はいるく 志のひてと

ヨチクル

ふん

○嵐法師 柳」ヨ志のハ〜 ゆきて志を

のゝ〜そ嵐つ〜 ゆきて志を

○門より陽る○志字○辻ま志○門より

○扶戸出 万」ゆきりそ〜 〜ちハふろとも

〜そ〜そ〜 〜ちハふろとも

○結婚○扶延○扶這 西」夜麻登幣へ迩由

ヨ ヨ 夜麻登幣へ迩由

ヨ ヨ 玖婆多賀都麻

ヨ ヨ 玖婆多賀都麻

許 毋理豆能志多用波閑へ

部〜由久婆多賀都麻

父毋ゑ志〜せぬ○〜〜のゆ志ゑ

○垣男（カイニン）　視松屏風　豆花六〔…〕

あひ見しるしの　垣ゆふ　ひとめ

ふるかきひるかき　垣ゆふ　ちや

ふる神のいきもこえぬべし。○廿九〔…〕垣ゆふ　ちや

くハ我名のいけくもるし。

○垣（カキ）　中垣　○垣（カキ）　垣　○笠（カキ）　世をくきこと

人あり　おのこのもとまやこのもきこ　〔…〕

○通（かよひ）　〔…〕　弦　〔…〕　〔…〕

〔…〕　〔…〕　〔…〕　〔…〕

もがり　妹許　○茅　〔…〕

○人男（ヒトオ）　人のもきろく　〔…〕　○男侍　五〔…〕　○人形

○男をき　○元付かくき　○たしろる侍

○通小町　謡曲　○揺（シヲ）のはし立　ちハ車のを

ゆりのゆりすゆ　八百ゆを人を待て　ちちのよ

数を　ものまろねこ　ものまろ　ものまろ　ものまろ

暁　のちちのこ　ものまろ　ものまろ　ものまろ

○鶏（ニワトリ）の羽根（子）かき　男をたのむ女こぬ　ゆの数ハ多

まろ　ゆの数ハ　ものまろ　ものまろ

りれハ　まゆ　ゆの数　ものまろ　ものまろ

暁　のもの　ものまろ　ものまろ　ものまろ

又漢の武帝王子時公ゆるあり

○髮 ちきり ちきる 「可」よ手掛と云り

一おし一 一まる 二世の一 きき一

一おく おの一 余不の一 むすゝ一

仮の一 我一 末の一 一て一

くゝきき一 をぬ一 源氏物語

○偖老同穴 詩 一ツ穴 同一穴

一ツ蓮の上

○あもちゝきぬ○あきす○一くきき

○一の仮なき○撓藻髮 「拵」かゝきちきり

○まゝちまどひ ゝたとゝていゝ

○拙言 ちゝ ちゝいゝ ゝたゝて○起情○拙言 ゝ

ゝうけび ちゝ ゝり○ゝごと 俗言 神言 かこつけ

とゝゝも ゝる ゝたゝすゝゝ ゝまゝし

ようゝゝ ゝへ一○むすび一糸○ゝいと

○より糸○手深の糸 ゝ四女 辛男○合の糸

ゝゝより合をゝとけハ ゝ又ゝのゝ一と ゝゝ言ゝて○いなせ いやといゝん

ゝ又ゝのゝ一と ゝゝ言ゝて 領ゝゝすゝゝ

○後 一 ゝを ゝまゝる ゝゝえんゝの

ニコト

一 ゝをきく ゝまゝゝゝ ゝゝゝゝゝ

○ゆび切○髮きゝる○黙 いきゝくゝゝ

いまゝゝ

○ひとりをまゝる

○採 みさを　採擇選に作すまつ事の意なる
師｜○こきを立る○｜ち
○翠雀採(ヘツクワクソウ) 雀ハ鳥を手む意 ○囁(サヽヤキ)○私言(サヽメコト)
○耳かる○ひよくのかるひ ちよそとるのくるく 象○枝ろ守私
○訓(ナレ)深(ツメ)すること　むし｜｜て採　除は惑さる｜
○遶　あそ　あそひ｜｜戯｜｜をと
めくり｜｜杖｜｜てうる　談｜｜手
｜かるき｜うろ｜｜て採る｜｜てあそぶ
○あそぶ　遊敦之又抛蔵に務まも家て入部らてとを
遊蔵ま蔵ひ捨あそてるき于遺しうり礼

○文 ふミ　文ハ古きを見ると以上文文ふくミの井男
葉のをとふくむ
たて｜｜神｜｜｜つゑひ｜｜のうそ
日｜｜うる｜｜売｜｜たく
ちハ｜｜ひねり｜｜つミ｜｜のたより
厂の｜｜宗の｜｜烈｜｜好のの｜
蔵｜｜云｜｜ひえひ｜｜の通ひ
まく｜｜気をす｜｜見る｜うちとけ｜
むすひ｜｜紹　小さの｜ちらし｜
彩書｜｜破　さのうそ　一つの山｜
むくし｜矢｜｜の上去　捨｜
○よびひ文○艶(エン)書(ショ)○木の葉ふのふミ「モ」
昔女男の方へ柳の葉に弄を出し軒の糸に家しくるとも

○女車　勾當の内侍○宣旨がき
　　　　　ぬきとけて書

○女手　をんなの手○女文字[士]○かなをば
　　　　男手 男文字

○玉章○ふみ○懸想文 ふみこそ

○けしやう文　源氏二代集いせ物語ホのことばにもあまたみゆ
を書く[小町集]にけしやう文に月と云字一ッ書てやりけるなどもみゆ。
すべて人の家る文ハおよそ詩にも云女の返しにもたとへ
の字を書てやりし事ありとぞ。又人を戀ふ
つゝ男ハよそとはいひ、女ハ書とはいふとなん料紙ハ下に書一四季ノ

○
詩　まち
　　まつ

〳〵　くれ
〳〵　扨

〳〵　よ
〳〵　日
〳〵　氏
〳〵　あふ　下
〳〵　人
〳〵　良

〳〵　わかれ
〳〵　宵　○詩宵 　三詩○辰〳〵○あけ〳〵
ゐ都[朝]よそる戀の詞之[刀]まも
三詩の詞なされと戀のすゝめのとなひるゝて日を
つきゐる事すし[源]にも十七夜の月とあり

○烏 ヨロコヒカラス ○家に入る 詠る詩人の事ある
[攏]せるり
○狗子(ムクコ)の詩ぶ後 詩人の人々、めきゝのあき[攏]○蟹(ス)炙の子ひとつ

○人を摠○更なく 號のふるまひ
　くもの下　下りくも[秋日]戀しき人のまちかた
　くもの下 下りくも ふるとき[且]うせこの戀しき事なり

さゝらの西京曰蜘蛛襲而萬事喜

○牡結 むすぶ おとろ

をむすぶ又ハ結むすひのん面味うつ紛るゝてくさ

むすぶ

○嘻 人の 世ゝ

○来ぬ夕○たゝひる○嘻 ゝをすれハたゝ

ひるゝ古俗

面ゝ行ゝ拍人道我則嘻詩願言則嘻

なつかし 乳熟 古 月ゝ花ゝもいろ

古ちりてすゝ

○隔 へたつ へたてゝ ん ゝ 中ゝ

ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ

いろ〳〵すゝ○へたてゝあゝ出ハれもゝのゝく

○禊 コヽロヽヽヽ ゝすゝ面ゝてゝおりゝ人の中をへゝてゝゝ

面ゝ巾川の名ゝゝ

○会道 フヽヽヽ 面ゝすゝ面ゝちゝを引ゝの山ゝ妹ゝ立てゝ

ゝ 根の根のゝすゝ面ゝ八組ゝ引ゝ結てゝれ

をゝてひろゝてゝ面ゝてゝをゝくゝをゝふゝすゝてゝの引ゝ

とゝてゝくゝ引ゝの山ゝ冠ゝゝゝゝゝゝ八俗ゝく

門 カヽト きゝたゝる○ゝ おそく昭○戸を抑 大和

○蓑 ユヽメ 古ハいゝゝゝゝて ゝゝゝゝゝゝゝゝ面ゝ

伊米ゝ伊ハ来ゝ来ハ目ゝハねゝ ねゝゝゝゝ

ゝ 会 ゝの名 ゝ ゝ 語

ゝの格 ゝのゝゝ ゝの世

ゝの内 ゝの面俗 ゝ占 ゝ人

ぬゝゝゝ

｜ま遠み　｜詩　｜結　｜諺
｜かゝく　｜笑　｜えらふまき｜　｜見まてぬ｜
｜画み　袖　｜　｜ゟ行　よろくあるへし
○夜を唇毛○袖唇す○夏見草　梅の異名
○盤を枕　双六[蒙]ㇾ意しき人を夏ㇾ見んと思ひて双六の盤を枕にして夜を臥し時夢き丼
たを含すれハ必夢
みるとつへり
○寝(ハニ)ゆふに忘を去　てま里よい　おもとよ似
[式]り寝おのとに意人の名を去枕にすれハ必夢らうと云
去つりゝろの夫あふ何として夢にハ人をみせさるらん
○壁(カベ)　夢を壁といふをみるめハねられてうる
とゆふ叙く
[全集]祢ぬるよのゆくきりうく笑しもうちしけれハをうろうろく

○現(ウツヽ)　｜の令　｜の人　ゆめ｜
｜の丹　｜の世　｜の身　うつく
｜の夏　○空蝉(ウツセミ)　やとの｜　まぼろし
｜こゝろす　うつの身く〳〵つらしき身
｜ころろ(アダ)　の抜く[冠]
○仇　｜人　｜波　｜人
｜くく　｜笑　｜口
｜志　｜めく　｜男　｜名
○花染　女人のあるをいふ　○伊達(ダテ)　｜こき
｜小袖　｜ゆかし　｜気　○今すがめ　｜染
｜好　｜ことし　｜すがめ
時世粧○昼ねし○二度ひつくり[笑]

○出豆菜（テタテハエ）○美（イロ）○艶 詩序疏云謂二女人一爲色

丨ぬ 丨人 丨くゝく

丨そゝる 丨こゝる 丨のた 丨のた 丨そゝく

丨る○世人○世づいたる 男女の走りそゝゝゝを云

○懇（ネンコロ）意する ○艶（エンタ）意○まめたち 瞋（ねた）

ぬ色のるる用 匠

意もまゝそちまひると

ぬ色のき

たゝと ○まろび合○約束（ソク） 山さくそく 寄の丨

○みそゝと○孤（ハタ）ふる○たゞよゝす

○対を但○さゝむふ○千枝を一枝

○さゝあひ○もきを○身をふる寸

○ふるさゝ○意る世話り○かり初

○いひえむ○いひさくゝえもいえぬ○子（チ）話ことば

○うかをる月まも花も いろく意をりて○身よあまる

○うちとけ○うハの字 そゝたのめ 中そゝ

○付さし○吸付（スヒツケタハコ）苦○迫まきり をおとり

○迋（タブラカス）詩揚水ニ人○いたづらを○くどく○訖（カコツ）くいろ
口説 誷○女くるひ○女がさき 賓迋ゝ女
○深心 世ゟ回し うつりん ｜の介
｜やり 志のふ｜ ん志り ｜より
｜｜ ｜ひとつ そくろ｜
｜並 ｜｜合 えの｜｜ くられ｜｜
さめ｜ ｜つよき すき｜｜ ｜を文
｜ ｜つくて ｜｜ あく｜｜
つめたき｜ 移 ふり｜ 迷ふ｜｜ 同し｜
｜そすき ｜ふとき ふとく｜ ｜のやとく
介｜ 深き｜｜ 深き｜｜ あらき｜｜
ひとつ｜ 志らふ 捨る｜｜ 夏女｜

｜くゝく ｜そうこ与 ｜をふぶ うつし｜
○人の名ハ狂女の父○人の子ハ狂女迷ふ事
○人を亦火せつなる父○人の松｜の花
の風｜の鬼｜のちり｜の麻 皆身拙くまたとふ
○瞹叓（ムツマシ） 親旁 昵 睤 いろく むつこあふ｜升 志かりて
○むつを つめを ひとり｜｜ かき｜｜
升｜ そう｜ よき｜｜
○うれしき○深くゝぬ○まつと｜
○恋升 まむき｜ 子あく｜
つゝしく かたく｜
そむく｜ 釈さく｜ 僕あり｜ ふけるき｜
かうした｜ 深い｜ よき｜ あい｜

ふるう井　訳あるー　磬のー　殺れぬー
をとめー　いとけなきー　ーをさく　○すいと同士　井と日士
ーあー　ーをさく　とれ面ふ

○つひのよろせ○ふりくぶる　むのふり
ありひのー

○縁　えん　ーむふ　をのー
えす　ー　遠　あくー

きるー　宣ー　水ー
つるくー　ー付　ーのふ　ーのふち

○白かり○ーの亀○亀の立○ふき
亀の立ぬれ元のなる　○ちりよ亀の立
あり男ふ
をふる○あるぬ亀○ふきる立○亀をなげす

○あらいる○穂よあるあるれいろいろ　あるも帳も家て
○悪名○ちりあふ　信ふとふあ○ふ不
ちめふて　ちてあふ　とちぬ○三藤の松ふ
○たのみ人　えふき人○むーあふ人○人を止
ちめふて　ちふ人○こと人○ふき世人
○袖引○ーつく　つくハ衛く侵く○袖ふる
ーふ墨つく　八ふよ高ふる　袖をかふす多り　○ーふをす
ーふ墨つく　ハ時ハふるあふ○ちふ　いふく　ふをふて
○男する　面まをまふ　ふをとつふ○川見ふる　男女のあふ
ふをとめふ　ふをとつふあふ　ふたとふていふ
百世の井をとめふ　ふもの川をつふふや

○ねまる物 いろいろ志ありて ○らうたき 栄[頭] るとよ
きのくにうらうハ労ハいうらうし女のかくいうの
身ニ羅ありきを思して我心を労しきやうに思ふこと
○慶門(ツトヒ) 男女のみれ ○親さかる サイ[頭]ぬき川のせてのす
稚和ううるぬる親ハ ○親まさせ ○親会
あつくてたやさくる
[頭]井人あつくて ○理分 理会ニ同し ○祢本 れくの えひす
めうとすることを云
の男女よりんとて文をやるかるくて一尺平の本ぐい
ろとりて女の門に立させてあふへき男の来ハ取へあふ
ましきハ取りハ手に書きつて行ッす 三[頭]
○ハふの細布 同しそうり 細布ハ狭くせハ布短あしぬ好

○際本○ーのぬし○ーの門○ー立ろ○ー九
○藁結(ワラムスビ) 玉[頭] さぬきの国の人女を呼にするすく わらのとくをむすひて女の
手へやるにあふましきハ わらのとくのこく
手ちてくしみあふへきハ わらのとく
川よせてうへまとりするのわてまる事 似[頭] 百三
玉樽 とりつるハこまらのるといふ神称公翁か書きのせ
なんそえて ○摘(ヅム) つむといふ詞読ぬて立よるのくの
さくよのそ あり番つむよよくて ○つをおり
○つまりりを○ 刺よ人義なすまるりたるえつてとそて
へきはこおろす 神 意ハ心 ひろうさとあふくゑくつくを
もへきたより ○まく むすし男女の交会することをまく
るのれて 三[頭] といりまくハたつのまくのまく
ろりするの生るをえ曲とふを其のまくとひとふより

ゝくいてりことの八月と見ゆり

○添そひ ｜｜森 ｜｜中 ｜｜そう一

そそふ ｜そはし ｜｜ん ｜｜安 ｜｜逆

○添臥ソヒブシ 横陳 拾遺 北山抄一皇太子加元服裏

書云 延喜十六十月廿

二日甲辰敬君天皇女参入用ニ肇應和三二月

二十八辛亥昌子内親王参入俗謂ニ之ヲ副臥ト

添ニえふくのねまゝ女そひふしよ寿るまゝり

○ふそり森 ○ひとりね ○ひとりねのつゞき 卧

よう 祢 おもひ｜｜ そう｜｜ たぬき｜｜

｜て 詩 元 ｜｜ ｜枕さり ふて｜｜

｜ぬ 狐ね ○寝こき そふねて ○ととぬけ せしの

ねうをめ 起ぬる もぬけ

せゝのゝ瓦 ○源氏中川の戸ゝてゝのとしのねまく

そのひのふるるも衣をと

ぬきてのれれおしろり ○森くるふ ○森も又ぬ

○閨ねや ｜｜の戸し ｜｜の至 ○妻屋 井

○相與クミトヒ ｜｜のくりて ｜｜の戸 ○妻

森旦ま婦の ○憂ウキ ○義 ○嫌モノウキ

○慵 安無ふうきま憂と夏と二通んうれり

うき人とちま憂の字まて八あ ...

義の字ろふつし八うまきの思語くうまき人とい

ふ女之余ハこれふうらふ

うきん ｜｜急 ｜｜世 ｜｜目

｜｜身 ｜｜こと ｜｜人 ｜｜安

｜｜中 ｜｜瘡 ｜｜さが ｜｜を友

○おぼろけ　身を擇　口説
○大きる　下こうれ　死
○そらき　さけふ　身を注
○注　るく　るけく
死　分

○かもく　つのあるもの　○投ゐる　○こうきよ　恒
○狂歌師　○病鶯　○昭馬　○ほそまこるき
○雑面　顔淫　伊　一　中　一　世
一　人　いろ〳〵ゐる
○ほりゐるき　○ほりゐるき　○あぢきゐる
ふゐるき　○あぢきゐる
ふゐうゐ　ゐてゐるきけのゐるをふ
ふゐうゐ　ゐてゐるきけのゐるをふ
ゐ味ゐ　ゐ乃　ゐたゐていてり
ゐ　ゐ　又人の陰をゐ味ゐたゐていてり
○はしたゐるき　淫　単　牡丹花ゐ女の
いひゐようゐきちゐゐ　五　拍つひこゐくゐゐと
つゐくゐゐとゐふ　○あ一ゐる　牛九　歩ゐの多
とゐつゐゐゐや姫

ゐめゐ〳〵大前のはを求りるゐこゐゐんとゐて大の外ゐ
入りゐれいめゐ〳〵ともゐえりるゐ　あゐゐゐりといゐとゐ
○あやゐな　あやゐ〳〵　あゐ〳〵　剤　○ゐるゐ拍　出　一ゐ形出　一ゐを出
○脅中合　○いゐめゐ　色　山ゐのむ色ゐれめ〳〵や
なれゐゐ美ゐ比ゐゐすゐ
○笑　柿　女の性ゐ〳〵ゐ　一ゐ同引　○神引　ゐゐゐ
○うたゐ　○謎　ナワ　一ゐうゐる　○拍さゐき
○恥　ちち　日本記慕疏日淡路私訓猶言吾恥
ちゐ一せ二神始生示洲深爲耻耳兵
くゐを一　ゐを一　ゐを一　ゐを一
一ゐ　一ん　一ゐ　一ゐ　一ゐ

○あさまつ○あまきぬ○おもてを
○たてうる○おもてぶせ○おもてまくり
○おもてをや○凡うをあらふ 盥
○つくむ 人をしあまり○やさしきうらうら
○悔やむ 上早圖後君 ホノヲカム 内九傳莊公六年 看不
○悔 ○仇 ○諫
○肖 ○嬾 ○表

○憑 ○厭いとふ ○訓 ○怨 ○絶
○怒 ○恐○凝 女の肝のおりひしぐ
○眼 ○怨 ○揮 ○つまをちきして
○ふすぼる

○之狡の虎（ナハラ トラ）　そこはあらん人をそこもるそこのそころそこ　遠

○さかしら○後人の中をとつろう　後を

○ねたむ○嫉（ニクム）○妒○媚　詩註云以色日妒以行曰嫉

○息　又婦之妒曰妒夫之妒　嫉ニクム

日媚說文媚者忌也

楚辭云各興心而嫉妒註○むねを刻

云害賢爲嫉害色爲妒

○鬼（レイ）くるま　鬼とるの鬼

○呪（ジュ）詛（ソ）○蛮（アテ）の遠（カタ）のろう　人とのろうよるを

ろうへそりて

たくるるあり　夫の遠るの一説あるる

もはれハ異

○猥（ヒキ）　ちつくまの足ハ猥をはり　故ろ

ろ　引はれハたるよ　ハあるそまるのつるはするそ

えハ之　昔唐の虎ハ猥して鬼と

るるる○接（ハ）次の葉（ヒ）

けるを被おて葉をなめと思て山羊を似

○嫌（ハナリカチテ）　○柏（ハク）の氣○生（ヒキ）　○狐（キツネ）鬼

柏　病鬼故謂人注云鬼と通す

ふんハ我人中まきよ此十脈といハ氣すこハち美

よふくまる急ひるむるるよ　ハるをひくるをうす

ハるよ罵てをを

いきるくまとて

○青（ヨリ）神○ふの言（レ）

○藁人形○藁の三○世間の人形

生見を祈る時見の形を藁を[illegible]

付るのせ川へ[illegible]

[illegible]

此事を学て神を祈る

○ふる[illegible]○不食○[illegible]のうきるる

女のこゝろをまれハたきこゝろのおのつゝ[illegible]

○荊摘（セリ）（ツム）八[illegible]「拾」と[illegible]

袖中抄よりいろくいはして一変[illegible]

[illegible]

[illegible]

○今ふむろふ○んか○和死○負
為○連延（つレノキ）○かします　いろく考りて
○塗氣（タヽケ）　流産のよい事をたゞりやくをたるとて
○離別（ヘツリ）　字云近曰離遠曰別　流産ふ
　俗よ　あるをもりそくろを離るの法
さり状　えん切　まえん　おのゝ世よるのもべつの法
さらろ
○使　おもりはよ立
　のろろー　花の一
○
えどけるー○四度解　右法忠の任ち
　ろよ四ゝ度て

動実性を動解由へ逆するを四度解とふを動
実のまをみをもとけるきといり今拙てとの礼
新ーろを志とけるいとつふ見ろ女の行の法を
をもとけるへと云も見ようまして初をかろを以
○泔（カタスキ）ろ〻ろ〻か一るよき井のあーくろ
てよくろるをふ
○定（カタスキ）豆○泔（コロスキ）豆　定以ともに一男八書延
一以女八ーろ入以のきろ
ろろるを　○一の清（アコキ）　佐義ふ来　霊法義女
ふ　図　通ひろ法又逆ふ全
いひ見れハあこきとのの
きとつふるを志ふて毎月を送り法お気ふ
ていせのあふ五ーー月斗の稿をくひろを男見
てあこきと云ろ動形くきのをまて毎以のふ

とけりとあり拍子を奏する和行あとさと
いふをたゝさゝもしいふ一さされと和行和のもし
をおこりハ意ようといりあこきと云あまのゝ人名を
○桐壺（アヒキロ）　後形拍子おもハ　八重　以意乃中之敷を主おセ人　反おもハ　れ
を同意主反意之以皆を　「おりゝんを」
告文　見ハ意之　又和ふ見も
○黒定　原氏の意陽井将式記ると女の上の
上中下の形くをかゝるもの　拍
○反拍の拍法　同　上○をとこの形を定
をとこゝゝ○男ゝ○一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ
○かハゆし　下意　いろく第て○寵黒

二ゝゝさめ　一ゝゝ
ゝ意し添き　ゝゝをおゝて○小不乙人のゆのゝ
「原」いとをおひ　つくしきゝ
やゝゝゝゝ○よる歌　にのむ人あるあゝを
ゝ男の意をおくゝして
ゝの意の意ゝ形意をゝゝゝゝゝゝの意ハ神意
○催ゝ示ゝ角意ゝゝゝ形をゝゝゝゝゝゝゝ意の和
○　後山　妹ゝ門　眉止之女　妹子我
遠反　徳角　指　根
○　遠ゝ角
杉　風　夕　白　花笹
蓑　上　揚　比　井筒
毎　稗　神　末　二人新
後　婚　家　女　通ゝ町
定　京　意意意　以下男

婚姻

ふ孤よむとの父を姻とし〜よるの父を婚とし〜言ふ
れるひて婚姻とす

○婚礼 婚 妖言 寿延
婚 入 聟 入

○吉時（コトツキ） 西宮記に言吹取言と一説寿命の事と
いふハあやまり

○嫁（ナカヒ）○氷語 井人口○伊賀久曽（イガタウメ）「岷」と伊賀
嫁のことをなげめといふ一説になげめハ孤をいふ嫁の
人をたとえたるを孤をたとえいふなるちのそこと
をいふハ和漢なるなるうのるく「孤」なるあくよも

○婦言 ○一言 井ふと 又麻の名と ○紅葉の嫁
太平廣記今日部成寵鳳友方知紅葉是良媒
るられるの名ゝやとうん紅葉の一えをうけしる黄のあと

○宿世（スクセ）結（ムスヒ）○言名付（イヒナツケ） 出男女会の
たハ七夕のこと

○初恋 ○一ふる ○見合 ○一て仮一度
一ふ行一茶や

○結納（ユイナフ） ゆいまき

○こまうけの物 公私ひちりめん
ふ 織物 の 引物ハ
ふ 又九種 又三種 ○引物 えうを
右十一種

引て行ねまるうかゝう○むこ引る○引ものの山
引ものの一ま　そのいろくあるべし

○常磐○常のいとゝ○同合（メアハセ）　仮女（メトル）
めとるハ嫁れ○出立　板元歌を書く○眼元女房（イトヒコヒニヨウバウ）
の男強く
紙屋ゑを　○門火焚（カイキヤウ）○輿入　京和（ケイ）　形（カタチ）
○雲教（モリ）　○雪（モリカタ）護刀　ちハ京府のうくく
のって先を祝と知く
○戸迯（ムカヒコソテ）小袖　名き一ま　○流小袖　地赤地すゝ
きぬく　男の見うり女
おとこのあゝ廣ふゝこのせて送る
嫁を養ふもをそてあらう　形合（ケイ）餅

男のあとて嫁の家和面ろ時白をすく
つゝゝ餅をあゝの白へ入金家和を弄を面ろ時
老人のまゝ婦杵を和千歳万歳と言メを合てく
家和面りすれハ老の白のもちをちくゝ
つき合すこれを杵合もちとよ
紙屋の張ゝ新嘉ゝ用ゝ式く○ちぎり餅（カヒヨケ又ハ又ス）
杵合もち　の作　○貝楠波
のゝ
○あゝまつり　嫁の家和のうけとり
和の印を面ろを又ハ
もこの
○結女帯（ムカヒ）　○結女房（ムカヒ）○迯女
○紙燭（ロウ）さし　けゝ
これ紙ハ嫁をあゝむ

○化粧の器 体是不屏風 ○床鍋（トコカナリ）○揮壺（オレタイ）
道具（ドウグ）○信壺（ヲケ）○鬱鍋壺○雑煮壺
○稲穂（イナホ）笊（ザカナ）○冥土（フ）者（キ）○鍋（カナリ）炊鍋
○女樣 男樣 さこのくらいハ十三こ ○長柄杓子
○提子（ヒサゲ） 九つのくらい ○湯子（スヱ） たてゑハ糸れゆう
糸れ とひの尾 りく二ねとそゑハ
杓 ○瓶子（ヘイシ） をゑへハ一ハをとゑのひをとき
ゑへハ一ハをこいのひをとく
○盃台○盃盤○蜂子（ホウコ）○大徳子

○臭桶○臭壺 ○掛（カケ）○二重一
○引波 三宮大宮の引波 ゑうゑ 重ゑ三つ ゑうゑ
○箱 ○衣桁 ○鍋ハし ○伝 厨子（ズシ）
○香立 餅 ○三枝の松 ○かるゑ結（むすび）
○おりひ結 ゑ歩みゑ 帯を結 小神ゑ ○さていの ○かい（カイ）
結（ムスビ） ○饗（モテナシ）の猪 ○打物（ウチモノ） 二の猪 揚物（ヨウモノ） 三の猪
流（ナガシ） 女男
れとゑの ○結 ○式三献

之〻九月○そる成月○鏃吸物○雜煮

○湯漬○十二組菓子　くきのしまちゝうや
ゝん　山のいも　せんこいこう
あるひは　ようゝん　ゝこまゝ　ゝおとゝまゝ
ゝゝゝ　ひとひこ○嬢　ゝこ　サル
○婿（ムコ）○鍋○すゝ子　くるみ　ゝゝ入　いりゝ
ゝゝま　ゝゝ迄
○舅（シウト）○姑（シウトメ）○二世のかゝめ　ゝの約束　ゝゝけら
○二反の布をひとつよこすゝる　まゝ　ゝゝん
○麻糸○小枕○彩まゝ○いしうち　石

○の湯　新孔雀法　○新京尺寸○饅女
○鹿紙　結自年公　人出書　○公家祝ふ　ともゝ　法ゝ
○杉子ひすゝ○魚虫ゝ　本武神の二月白
○里彩○里俗　三日　○三日の杉の餅　彩紙
杉のもちハ女の色の杉を調
すゝく原氏三ケの秘伝の二ツも　○花かつり　十日目
○孫虫ゝ　ゝゝの　朋友ゝゝ　○ゝるこ餅　むこ入る
八十もち
又ハ八年の餅を一升ひてゝ
ゝて吸よ入て　をすゝり　○ゝ祝　十八言

○うつて○ろろ○きろ○ろりそ○ろろ
○ものと○のく○さる○さむる○ろい○あさい
○いめる○ろまぬ○あく○むえん○いとま○さく
○ひまとる

○**永祝**（ミツイハヒ）　永ひらけトモ祝　ひきあいらけさせのと歳時ヨ
永祝永祝の祝の三好ろ京ロ松永弾正ろ
姫を我家の家臣ろめあ世ーまり此祝れを祝ーと
つ不ろあき中年血気のさうんろるよ但てたりむれ者をそ
こるひ病を生ーー武ハ口論闘事ヨ及ーまり此ろ止ヨ
き去ろあ〜〜ろよ要ー男ヨ神去の此此祝きをす
きえ季ヨ正月の祝ろよ〜〜ろり
たつよ嘉ろる贈礼武ろ小笠原大諸礼ろ家
家ーの義去ようつを載ろ濃ろるハ後編ヨ有

支雑

○**めくハせ**　目成目加目合眼語目ろてんを色す
ろり樹後ヨむ後の女ヨりくり世ろ
○**人目**　人めとろーーろのヨーろろーーの宴
ろろーめ　めませ　めるひく　ろりめ　めるり
まろ物のめ　めえのーの　いもろえそめ
あひろる　○**睫**（ニツチメ）目　ろるるるち　○**睫**（ニツチメ）ろく　めのあろ
○**睫**（ナミタ）目　人眼皮有自動名之曰睫則見二
好人矣ーる玄〜〜ろ時の不ろろ
ろるるの川　ーのあ
○**涙**○洞○涙　ーのろき　ーのそて

ーの測　ーのこゝろ　ーこゝろ
紅のー　うゝつー　ーこゝろ
もらすー　ゝ髪ゝー　ーぬゝよ
ーもろき　ーよわき　ーの髪
ーのむ　ーの数　ーつゝる

○髪のゆ○さゝ○櫛ゝく○袖ぬゝく

そゝのゆ　ーの髪　ーの髪
○髪　ー　ー　ー
さけー　あゝひー　みゝれー
ーまゝく　むゝしー　ーけつゝ
おとろー　ちゝまー　たゝ付ー
ーめゝー　ー入ー　ーめりゝ
ーとけゝる　ー切　こゝき屋ゝ
柳のー　ひゝひー
ー原れー

紅原ー　あまー　ーちゝれー　ー
ーたゝ　すきー　蓮のー　蔦ー　釣
みゝのー　ゝゝー　ゝたまー　ーまち

○目さゝー　いとけゝるきゝ不とハ目さゝーといつてひゝ
ゝゝの目をさすゝゝ生りなゝをつ
目さゝーゝてゝ肩の
あゝりゝと下ゝるゝを以
下ゝゝふとゝゝ赤をゆて

○肩ゝ（カタスキ）

○放髪（ハナリカミ）　肩あゝゝ
ーゝてゝ

○髪上（カミアケテ）　結髪　髪髪
ゝゝふハ冠子とゝりてはきゝて出ゝゝむ

○髪上（カミ）　ゝるゝゝゝのはを髪上
それゝりナ四ゝゝとゝりて男ゝまて
もたれてのゝゝゝをたれゝゝとつゝ
ゝ上万葉考」百十三ゝまの八とゝをきゝゝの我かゝ

○髪上（カミ）

○放髪（ハナリカミ）　はゝりゝゝゝ同
これをゝゝるゝのこと云

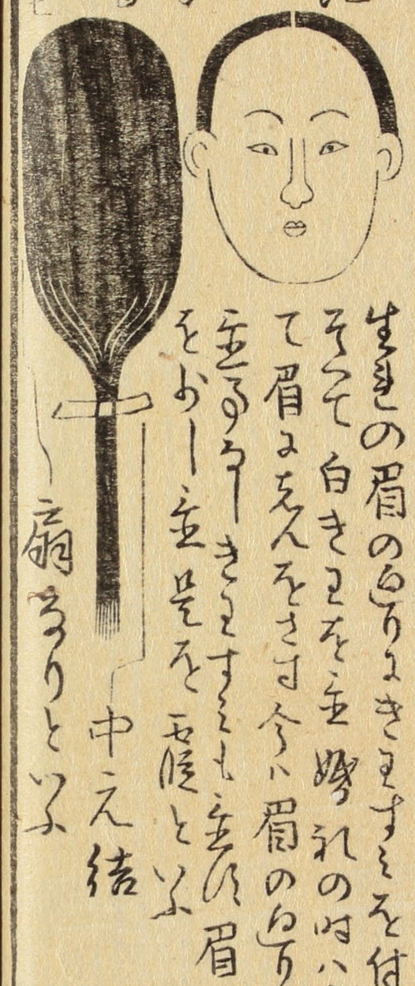
○音量（ウナイ）

をるの八とせ子のかゝるのはをそろりとよりイセ」くくらふりふりうもかゝるあるゝしてたれらあくへき

○ふりふり髮 雙松亭花板ノ俗粧略記ニ云ヘリ 嘉女ゝ〻ひんを十二筋

我〻ゝ近世ゝ是を〻〻戴「嘉女ゝ〻ひんを十二筋」牛たたへさけるゝ

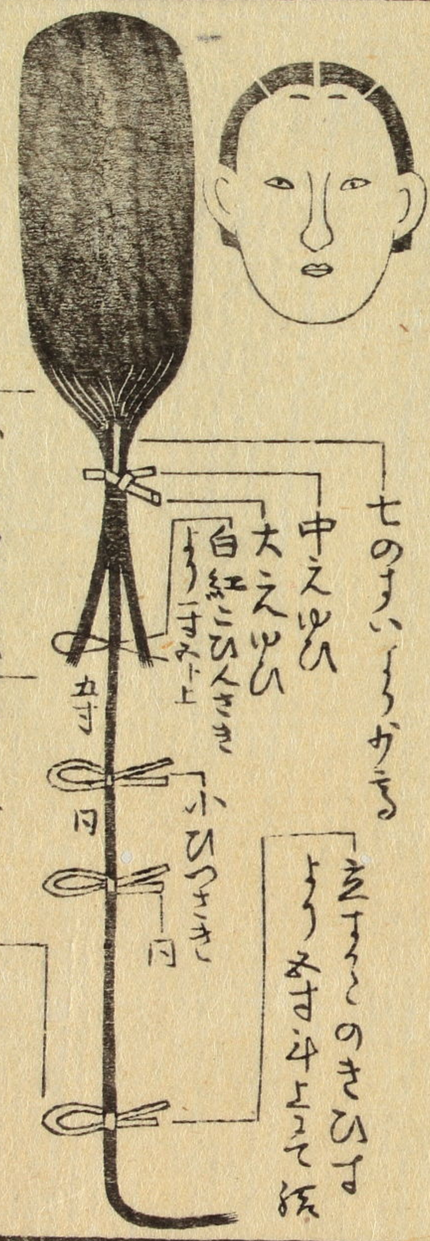
○毛屋らかしの髪 是を見らハとゝふ



生きの眉のゆきをすゝをけまゝ引そそて白きをを塗れのは八会を海て眉ゝををさす今八眉のゆきる白きハ毛るゝをおゝ毛毛をを毛屋とゝふ

ひゝひハ丸くゝゝれてきハ墨を毛てまゝ引付て白きハを毛ゝるけめひゝひゝ一ッゝるゝ古法ゝれと今八二ッゝまるゝく又ゝ髪ゝるゝ叶教八又髪ふゝてきのはゝるゝし

○大毛屋らゝ



○根結の器

竹ハ枝をむしりとりてむしりハ
曲りつき人ハ多く枝を結
器多くていろ〳〵

大ゑ法ハ白紙をたゝ白紙ハあさきえ結
を用ひさきハ結るるもの
ちゝとハえるものいをよゝ〳〵
今ハ山るとを多ふ用毛巻巻たゝ
るとつゝとしとし根巻あり

小まゝのゝちられを
老たゝ人ハ一ッ結
これを竹のふし〳〵ふ

○掻入（カキイレ）○從角（アチヅキ）○了角 又六寸十寸子の
盤ゆるゝ結ハ
盤まかるる ○兜（カブロ）○了盤吉○角盤結ゝる先く
ふゝゝゝ（ツノヅキ）
○丱 十七八の比双才一 ○束盤（ツカネ）○束むすび
ふをつ
ゝゝゝて ○蔽髮（ヒタヒカミ）ゝゝひとひ ○みづ〳〵 御盤
付ゝゝ
上ゝて 下ゝゝ を巻ゝ
ゝつゝハ壹子の從角（リヘカツラ）結
天平五月五日
五月の祭ゝゝ ○菖蒲鬘（アヤメノカツラ）あやめゝゝ
菜のゝゝ
○添鬘（カツラ）えひゝゝ ふゝゝのくき
○こる婦き 婦きの人のゝゝ
仙ゝゝ のふをゝゝゝゝゝあ根
ゝとゝふ

○髪ふ色（イロ）〻〻の〻〻〻

○眉まゆ　ー　ー　ー　ー　ー　ー　ー　ー

柳の一　○眉さらさらとふハ大四○一仙とふハ地下

一とゑく　ー　ー　ー　ー　ー　ー　ー　ー

さしたと丹　二度の一

○代黛（ニユスミ）　説文云黛畫眉也　○蛾眉○脇（ミカツキ）一

眉化ゆハ古よりむかう

○山一　○譲（ワスレ）一　○嵩一　○煙の一　これハ

えゑたとて　ハ

ふふふきまゆ　○大形一　○眉立一　をさゑき

ふふふまゆ　生れの　○庚一　立たけふる人の

眉をやより利ふ　まゆ

○天上一　○雲ふり一　○柳一　○枯一

○麿（十二）一　とハ細ふくふくふくハ　ハ　ハ　ハ

ふふふきまゆとて　○荒て一

柳眉　山ひき　大芝一　山ふく

板畫記ひとひとりゆ　ゆ中

下てふくゆ人ハ行上てふく

ゆを天上眉とふふ　ふ多一

又まゆの上ゆ白ふ　白きゆ行ふふ

以上原養主　四位のえゑむ代ての眉の器とふてこれゑるへ

○眉よ志んをさす　とハまゆを主ゆをえゑ

ふく　勝孔舎重の時　一行ふくせんゆをえき

志んをさすふふ　○めふふの黛○乳墨

まゆすゆの夏ふ

ゆふふをつ

○十ふ　○ずく小　○こ詠ほけ

下ヨリ見テニツ　ろんぐるをてふ　○鬼面（キメン）　○よろこびの眉

○眉冠　○眉ぬく　日たも　○眉の根蹄（ハヒキ）

まゆのひらきさこるのひくもてきまつんやらうえんと思ふ我をハ

○額（ヒタヒ）　九一　百一　五一　三一

ふくまのるもも百ひくひ　○すてひくひ雅楽うめ芸の

百ひくひハ冠のるもも　百ひくひ　ひくひめく

○白つよ雲つく　人ヨ高ク時ハ白ヲ生ス

まものねのるもき的のつまつく　ひものとけるひらはひ

○初鳥初ふ　正月廿日如人続歌ふめくもち

をまへ多く書を初出ふとしつり

○鄭重す　○一化　○初一　○一見ふ多く

○花の一　○嫉（カホヨキ）　○媚　○生目　柳のこひ　千金の一　拍

○婀娜（タヲヤカ）　○花の姿　○眉の脣　○義

○こめよ紀　○ゑまめく　○不のめく　○ほめ

○不つくり　○娜（ミナヤカ）　○穴巣（ヤツクヒキ）　○壹の唇（ハタ）

○柳腰一　女ヲ　男　○獣面（エクボ）　婦人西口裏　完咲

○化粧（けはひ）　則　有之　拍

よそおひ　けはひ　よそおひ　けはひ　よそおひ　よそおふ　よそおふ　よそおふ

○意馥（イフク）やつれ（ハ）ハ京よりとハ京よりハやせ面てりぬるとのこそたる
○多ゑろき（カゝこき）こ所を一けうき多　人をれぬ一
○多を川　多ゑむ　川多あきく多を川あふ
　多みきる白　うひるり川
○風たゝく　えうおく　投つく
○口吸（ハ）　嗜（ハ）　口子（ハ）　齒
拒口孫（コウ）爵（ハ）都（ハ）
一齒一意快
○人の香　うつり香　くゝ香
○涼風
○仇もくろる　意ふる　時ろう
○ゆひさす　二ナレ　二ナレ指
○遠くろめ　白（ウ）歯
○白歯　歯　歯深　声（カ）掛

○醜（ミニクイ）　その子　定家式子内親王ゑ意して弁ゑり
　おめしの兵　ハれハ兵ゑしゑふ及そのつゝゑてと
　ありゝゝ又ゑ内ゑれまて　ゑしゑふ及そのつゝゑてと
　とちきりのつゝ女の兵しゑ　おめしの自ゑて　ゑ房のゑをゝゝて今ゑ
○精（カサリ）を焼（ヤク）　我負の子（ハ）ゑまくきを　ニンシ　やとそひろう
　　ゑてけゑひせあゝ
○懐妊（クワイニン）　孕（ハラ）　孑（ハ）　孑（ハ）　孑（ハ）
○孑（ハ）　孑（ハ）　孑（ハ）　孑（ハ）　孑（ハ）　孑（ハ）
○孑おも　孑ふゝつ　孑つ　孑阻（ハリ）　孑饗
○月のさゝり　けがを（ウミ）
○除月（リニケツ）　うゝ月　ゑゝ月　初産　子　産汲　血の兵　第下
　　髮ぬゝる　ふゝめ

○接（うつさしたに）　拍を送る

○離魂（かけのやさしひ）　拍おりひの「風」

○拍（もとケ）　拍

○氣（ケ）　拍おりひさの白の白をまきをよする

○恋（こう）　眉（ひ）

○虎（てい）　拍（ソウ）　拍やうるおもうけを

○打（セツ）　拍（ヨウ）　拍と曲て

○歯（こう）　笑（しょう）　てしをあつ

○嬌（ウ）　歯（こう）　笑（しょう）　てしをあつ

○憧（ショウ）　憧（ショウ）　拍（ケイ）　拍（ケイ）

○肉（にく）　陣（じん）

○肉（にく）　肩（へい）

○肉（にく）　肩（へい）

○三十四

○三十五

○妓（キ）　囲（い）　天宝送る　揚巻

○香（こう）　肌（ふ）　暖（カン）　天宝　送る

○肉（にく）　友（ユウ）　○庵（ヒ）　ち（ル）　男根を形ーものく今

○乳（チ）　流乳（もらひ）ー　ー　狭　ー　ー　ー

人倫

神代女君の事を載せ職系抄をやうけ解釋「孫念」拾遺「ゑとゝうつゝのす」全

○太皇太后宮（タイクワウタイコウクウ）　帝王の御祖母也

○皇太后（クワウタイコウ）　帝王の御母也

○皇后宮（クワウコウクウ）　帝王の御妻也

○中宮（チウクウ）　御妻人臣位にむかふ人臣位にのぼれば三宮の數えを中宮をも亦臨書と孫一柏武の時は又中宮を

歷代皆皇后と并立と雖ども

○女院（ニヨヰン）　中文の時院長と天子の時母也

○母（ボ）　是又天子の時母之昔八女院を母の名る一

○内親王（ナイシンワウ）　天子の時姉妹娘と内親王の宣下をあきは八皇子と云

○女王（ニヨワウ）　親王家の時娘を云　「令」二世以下四世以上

○女御（ニヨウゴ）　三公の時娘を后を造り妻と周礼　「彩石」令の妃と妻と后の娘を女御と云

○女御代（ニヨウゴダイ）　女御の次也

○御息所（ヤストコロ） 東宮の時の内侍の細御子をうみたれば息所といふさてそは女は更衣なるとの御よ是をよばあり 女は更衣なるとよりはり源氏の君の母の御息所とのの御子なるを上つ方の女はをもはの子をうみて桐壺帝の大臣の娘弘徽殿の女御とやをり 竹山 桐壺の大臣の娘弘徽殿の女御とてくはいまんのけもれ息所しあり

○更衣（カウイ） 大納言の内侍娘くの天子の衣をめしそめ不 桐壺 ゆくえとは 親王 桐壺 実白の内侍娘をいふ

○北政所（キタノマンドコロ） 又小の方ともいふ内侍の方のことをいふ

○御臺盤所（ミダイバンドコロ） 清涼殿にあり女房つぼね食をする

○御匣殿（ミクシゲドノ） 内侍を立めしかの女房の中より更衣の中より女蔵人の中より

○宣旨（センジ） 後宮に召れ侍をいふ ○蔵人（クラウド） 女くらうど

○命婦（ミヤウブ） 内命婦五位以上をいふ外命婦六位以上の人の妻をいふ

○女房（ニヨウバウ） 内侍をはじめ陽明の女房扇の女房扇の女房扇の二ヨウバウと傳時ハ内侍ニヨウバウ傳ハ乃自女選

○主殿（トノモ） 殿のもり○とのもつかさ○とのもつかさ 後人くをのく義乃廉のすくく

○得選（トクセン） 殿上の宋女是をかめる行事の時大袋を持て内侍と同車す

○刀自（トジ） 内侍後の女房くはあつハふか

○東宮司　公子に仕ふる内侍司の職なり内侍の中にて侍を撰ばれ東宮に奉仕とつかふる女官従姫松と云ふ

ひめ侍を松といひしく

○雑仕　従をまた又八侍女　これに任ず

○下仕　同上

○内侍司　婦人仕奉のをんなすべて女官とす　四侍の下なり　司は官人と

○尚侍　従三位以上人の内侍の上席にて　大臣の女を以て任ず

○典侍　従四位公卿侍臣の女

○掌侍　従五位典掌四人下を四人の内侍一を

勾当の内侍とつよ将軍家より内ちを

ものの内侍名文すして勾当にあつ

○女孺　下役し百人あつ

を代ハ小袖よくく云ひし

○蔵司　三種の宝物に絹布等の出納あつ

○尚蔵一人正三位上に同　○典蔵従

四位二人○掌蔵従七位四人女官十人

○書司　従くの女官書等琴琴の教習れ

○書女従六位一人○典女従八位二人

女官六人

○薬司　元日屠蘇を奏し一切の薬の役

○書薬従六位一人典薬従八位二人

○薬子四人にて薬の役義味役し

○兵司（ヘイジ）　兵庫ハ兵庫寮ニ納トイヘトモ唐の制ハ兵部ニ属ス当朝ニ属スルの者兵二人
正七位○典兵従八位二人○女孺六人

○掃部司（カモリノツカサ）　掃部頭一人
○典掃従八位二人○女孺十人

○殿司（トノモリノツカサ）　主殿寮ハ殿司ニ属ス又殿司ニ属の者一人
従六位○典殿従八位二人○女孺六人

○掃司（カモリ）　このもりとよむ大体同し○者掃従七位一人
○典掃従八位二人○女孺十人

○水司（モヒト）　酒の事を司ハ酒食の毒を解四月
十九日小豆の日六月十五の日四月ニ

○ろう従七位一人○典ろう従八位二人○采女六人此ハ後ハ
○膳司（カシハデノツカサ）　一切の供食物ハ膳供ニ
人○典膳正六位二人○掌膳正八位四人

○酒司（サケノツカサ）　采女六十人采女の事ハ后
酒とかもしをと司○者酒正六位一人
○典酒従八位二人

○造司（ミキノツカサ）　衣服ニ関する○者造
正四位一人○典造従八位二人○掌造四人
正八位　女孺百人○右十二司を職人官人とす

○上薗（ヒヤウ）　二位三位典侍とす○小上薗
大臣の位に准ず
美濃をいふ
公々の位に准ず

○中薗　五位四位の人の妻
法をまつ

○下薗　如人義日吉大の○和上薗　和ハらや
社司の妻

○あて人　上薗の
るく

○ひめまち君　宮女とす
五位以上

○后（キサキ）○伯（かゝ）の（ハ）ハ（ハ）ハ（ハ）ハ

○おかい人　女子の婦子を云ふ　○くばり　ウツリ　女房たちを云ふ

○相付　ものけを云ふ　女房を云ふ　病の時又は重病の

時ものけよりせてこれを祈ふの如く

○御所　きん人の御妻を御所と申す　所と申すは

妻帯不と雖ども　えん妻帯とハ猶のこと妻帯不をハ

相手をすきるるを云ふ　志ハ夫の食物を

言伝もせず職を忘れぬハさんれるるハ

○御中　きん人の御妻を中さまの御妻の間よりの

ようての　○家督様　公家の　○上様　今ハハヤ

さまの

妻をかゝさまといふを遠り　古ハきん人の妻

を祈して上様といひしを　今ハ女房

女房よりつく　一条殿家門殿のよ様へ志ゝて妻

りるを撞　よ寛正六年正月十日に供二百円上様

に供ふ人と　○御新造　とつかる　女房

ゝ　男　○御新造　よきん人ハ必妻を遠る

ゝ妻の伝ハ手ゝ書を祈ゝと遠ふ　遠ふ

○奥方　○奥様　ハを世の　ハ　祈ふ

○さゝぶを　函正方と　ハ　人

ナニハウ　ゝ女を　今ハ　人と　ハ　人

○男房　函平盛義記ある　安房ハ女房と

ゆれとさるあ　ゝ男の男とも男房とつかる

ゝ男房　ゝ男房　ゝ男房　ゝ男房　ゝ男房

○妻　今夫妻といひて、男の方をいふ、こは人よりも女を妻とつ[illegible]男を妻とつひ男の方[illegible]妻つまといふと○はし[illegible]妻○ほきつま[illegible]妻○とを[illegible]妻　まれろく[illegible]

○とほ妻○むつまよ○一説妻　仮借

○人妻　意屋　[illegible]　おりひ[illegible]　いろひ[illegible]　花　[illegible]　よ　[illegible]

かくし[illegible]　あくし[illegible]　[illegible]　ころり[illegible]

我　[illegible]　祖　[illegible]　[illegible]三山の[illegible]

○玄妻　兄女をさして　[illegible]今も[illegible]男をけ人

さいとつ玄ハ[illegible]妻の[illegible]

[illegible]女ハ[illegible]の[illegible]

○内室○内女○女房　今の人妻をさして女房とつ[illegible]世の[illegible]

[illegible]宮女を女房とつ[illegible]伝よきを[illegible]

[illegible]房とハ房のごく[illegible]家[illegible]○[illegible]ごとち

○妾　上よりつ女房ごく　礼記ニハ后之言後也

在夫後故以女謂後也

○妹子　妻ごく　又女の[illegible]名○[illegible]こ[illegible]ひこ妻ごく

○家[illegible]子　妻ごく○[illegible]人女　同上○せこ　同

○みめ　妻○こ[illegible]　古語拾遺　古邪義先妻ごく　大和

○ぬしある人○ほなつ　ほなつ　ほなつ　ほなつ
○ほなつ　ほなつ　ほなつ　ほなつ
○ほなつ　ほなつ　ほなつ　ほなつ

○えつのこし　圖女ハみな侍の
罪とゝ云ふ　○孃（イモ）○妹（イモ）○いし
如足天の妹とゝ云ふ　○おなじいとゝ云ふ　○冠
これハ上ツ代ゝ末の代と西ゝ云ふ　○ハ師氏　こゝらせしの足ハ師氏
その小ゝ云ふ　○むすめ　○ゝの師のてゝといもゝとゝのゝし
もゝ之の約めゝし　古者不言兄弟長幼女以男
称兄男以女称妹　ト男

○姪女　姪女ハ女ゝ今ハ子ゝ云ふ　○いもせ
と又一ゝ云ふ　姪ハ行と訓して不ゝ
姪ハすゝし　昔ハ天皇ハ人の姪をとりて
ゝの名を云ふ　○おとめ　○ゝ
○姪君（ヨロ）　○乙女（オトメ）　○嬢（たとめ）　○嬢（上ゝ同）

おとめ　ゝゝ女の子ゝ
ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ
ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ
ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝ

○女郎（ルフ）

○たをや女（ある女　嫋女）　弱女　たをやめ　女

○恋よかげろう女○美女　美女　美女　美人

○鬼素（ト絡さハ又の）　○たをこ○麻績女（列）

女ハ女〻さ〻ものを業とすれハ〻〻ものと

ようていすの中のまハをもちとあるとハ

人ろとゆハ　○鬼（オニ）　女のまとおにとゆあるちろ〻

多位ろ〻　まつ〻ものこもれりとよこ〻も

女し　引れよ一口よりて　ものとゆも女ろう

○二ことつち○ひさもち○をとこ○をとこ

若こを義朋又　○こう　アー人〻〻〻　○色ろき人

あ〻女房の名し

○いせおとめ　かゝ〻〻　あまー　○海女（モノスヒメ）　日　滝姫（スイトヒメ）　織（オリ）

○かゝ〻いとゆ女　号秋田侍は　貝のまとゆ〻〻〻　○色女（ヲサメ）

ト女し　ハ川　別目○ハ厠人（ミカハヤウト）　樹間吊き（女く）　○ひすま

厠ハやさ　○すまー女　女ものあ〻　○さ〻じ女

女方の名ハト仕親仕

ものとゆ名ようあ〻〻　○くりや女○ひさい女

○ひさめ（仙ニ長女ニ）駙婦○ひとめ女（ハトヒトヤシ）
○ふれり女○むれり女（むれのゝ男）○えそ男ふ
（石仕ト女ニ）○河内女○大和女○唐傘○つゝ
○雑炊○えうせ○小原○苅生
○矣脊女（ふゝふゝの名と用）○乙女（ちゝ林の云を伝をるの
ろきゝ女とさして石女と○四男まさり○拓
ゝふ又扇提トモ子）
○後妻付祝○後の女○矣女

○媛姫　小姫
○娘むすめ　ひとり　こせ
○まる姫○おとゝ（ケイ）○息女（ソク）○生（ムスメ）
○乳母（メノト）（和名妻の婦ゝ）○爾母（ニモ）上○婦（子）○いろひ
○妹（イモウト）○いろ○姪（メヒ）
○姪（アヒコ）（ゑむとれひて姪とす
一人ハ姪を云一人ハ妹され）○婦婦（オトヨメ）介婦
○姒婦（オホヨメ）家婦（礼）○姻（アヒヨメ）（仙）兄弟のつゝを

○妹（イモセウトメ）○姻（女婿）○嫂（アニヨメ）○娣（コヨメ）おもと人
○妾（セウ）めらけ　おもひもの　たゝ〜　たゝ人（スヒロト）
てらけ　かこひ　一妻　伽（トキ）
○掖子（ワキコ）妾をこ掖　ちきこ　ちきこ支○歛（ヒト）夫（まめとこ）
又まめハ好色のるる用○まめたち瞋　拗　まめハ実し
○女丈夫○せ〜と
○きんひら娘（ケモリメ）大和　大徒のちきんひらの沼
あるこの井戸と　いせの国　ふあること
るるのひて酉るるをお智やけもきこめてや目ると
つけさせまひてるるのひるま酉ひるるるるる

○ちぬのをとこ○さてたゝ（ともこ）
○念者（子ニヤ）○扈従（レヤウ）○小性○ちゝ
○出京藩　山　ちひ〜く
○をとり彼（下彼と去）　妾の子し　彼成　ちひ〜く
○寡（ヤモメ）女ヤモメ　○をとこ男（むとこ）
○嫠（ヤモメ）○嫠婦（ヤモメ）○鰥（男ヤもう）鰥
○新京住○未通（トメ）女○少女○童女
乙女とハきん　てハおとこ
○見とめ〜○〜るひ子（こるお女こ）

○女曹（カシ）　少女く字引　朋友の不ほ

○女の臺（ハウハ）　をきなるろ　をんろの子

○糸儿（カツロ）　少女の面祢くかむろと　○名雲のろ人

ゝハ誤かぶろろり　ゝとふハ　をさなき女く

○侍母（モリ）　子もり　○孽（ヨウ）　ト女く

○あこ　少女く吾子く　あこ　ゝくこもてこよ

○ごアん　芸ふハまゝ　○孔雀人

○女（ヨシナ）　嫁（オキナ）　ヤろ女　○老女　○古女

○翁（トウ）　枕　○專（タウメ）　和名　老女く者の例

太宇女とふハ　老女の古語　○嫗（おむ）　を一とふ女子

女とハ仮名遣ひ　○おゝるく老女の称

○賀（トシ）　古語ハ老母を負とす　人ゝ習とは貝と自ハ子

○戸母　○老嫗　○覩自（ト）　戸ハ人く自ハ主の字

戸母とをハ　ハ一ゝ戸の　をとをみ　人の老ろ

ゝとつれく戸ハ　ハくいつめ　ろゝ女く

○刀自（トメ）女　後紀ハ女の名ゝ刀自女とゝ多

又西一説女　又ハ女の老ゝ　ゝつけてゝ称号

○丁年（カクサメノトシ）　男さくきめハ　ゝとめく

ろゝとめの老母　○眉巳（サイ）しめ

ゝ老女も　ゝ老女も　○ゝ女　○曉（ウ）

あのとゝめ　ゝ

○清代（ヨ）　名目　母を袋ゝろ　ゝゝゝハ腹とゝ

時ろゝ　ゝハいとけるきゝ　母のゝとをを

○人 ○鑒（アイ）○はあ人 ○妻の丨 ○いとの丨
○士 ○そ丨まの丨 ○丨の丨 ○丨の丨 ○丨の丨
○かつきの蜜 ○汐汲（ばたの丨田子の丨） ○丨丨（衣里） ○湯女（おとめ カツキメ）

○市女 ○紫麦女 ○うハたまり（酒麦）
女こ丨（ハ丨ハ丨の丨の丨） ○丨（ス丨） ○陸女（ア丨 ニ丨） 女あきんとこ
ハ丨ハ丨の丨ハたま丨

○湯つ丨 ○かい女（ま丨ま丨） ○丨麦（女紫こ ニ丨）
○前打 ○茅麦 ○乙麦女（京小白川）

○おりめ ○おへて（ぶ丨ぶ丨） ○ふ婚こ（つ丨めこ）
○麻の子ゆ丨 ○徒丨 ○てこ（女の子）
○かく丨（ま丨ま丨） ○麦（京小丨 ナ京女子丨） ○富小女
○湯女（ユナ） ○風呂屋の猫（同上） ○狐 ○柏
○鬱女（コ） ○女めく丨（ニ丨） ○女法師
○女 ○いし丨や ○白柏子（ほ丨ほ丨の代 亀蒙より伝）
紙屋 紙女そ丨 ○女薬（丨屋形後 女柏）
この丨 あま丨

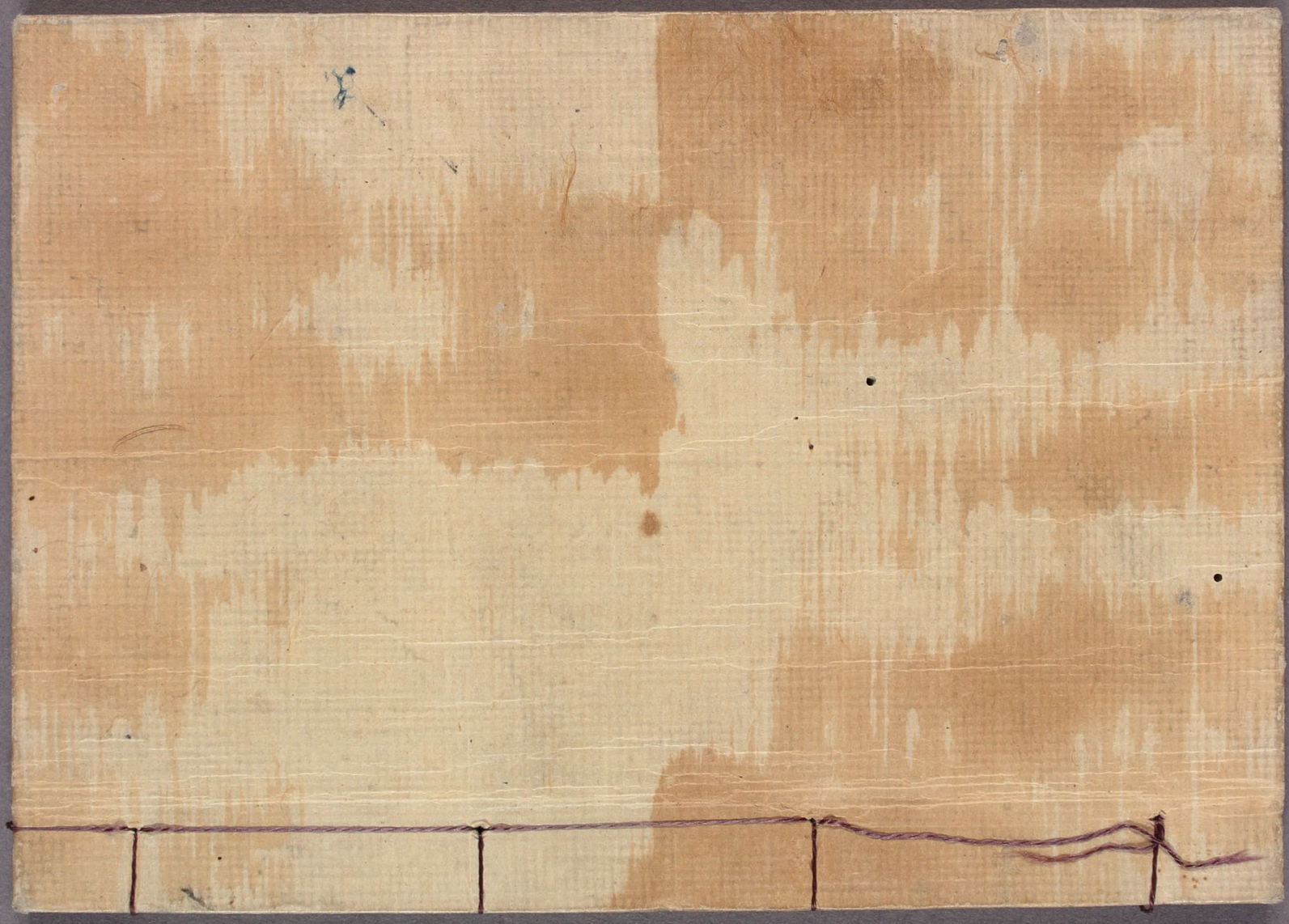
○蓮子○義子○社姉○あご

泗川女○志乙酬女○為冥人物訓蒙

盤の里ゝ[illegible]女のなる代れをいゝゝきれ[illegible]の為を
冥世ゝ[illegible]ありヨヲヤナイ[illegible]とゝて[illegible]出行
至の八ッ時ゝ[illegible]
ゝゝ[illegible]を[illegible]ゝ[illegible]

○児冥むすめ　乳ある女を連らゝゝゝと

[illegible]を
[illegible]おりく

○玄ホ　播ロ　味ミ　噌ソ　[illegible]

一名[illegible]味噌
豆豆刻れく柿の
ゝゝひゝゝを[illegible]ゝゝゝ